

成果の説明書

(氏名) 中村 彰良	(学部) 経済学部
1 重要事項	
研究 昨年度、高い能力を持つと知覚された情報源からの情報は、過大に評価される傾向があり、低い能力を持つと知覚された情報源からの情報は、過小に評価される傾向があるということについての海外のアンケートを用いた実験研究と同様なアンケートをゼミの学生に対して行い、データを収集した。 当年度も引き続きデータ収集することを考えていたが、新たなゼミ生が入ってくるまで時間もあったので、データ数はまだ十分ではなかったが、データ分析をしてみると、ある程度予想された結果が得られた。 そこで、この結果をまとめるとともに、東芝問題でも見られたような内部監査部門からの指摘が尊重されない傾向について、内部監査部門の能力が過小に評価されている可能性などについても考察し、これを研究ノートとしてまとめた。その研究ノートは、「内部監査部門の知覚された能力と内部監査の実効性」というタイトルで『高崎経済大学論集』第62巻 第2号(2019年9月)に掲載された。	
教育 簿記論については、簿記検定の出題範囲が大幅に見直された。授業では必ずしも検定試験を受験するための勉強をしているわけではないが、見直された部分に適切な見直しであると思われる部分も多いので、教える内容や使用するプリントについて、例年より多く見直す必要があった。 管理会計論については、例年並みに、授業で配布するプリントについて見直しを行った。 ゼミについては、夏休み中に3年生のゼミ合宿を行った。合宿では、チームに分かれてビジネスゲームを行った。 また4年生の提出したゼミ論文に目を通した。	
2 その他の事項 日本会計研究学会全国大会に参加した。	
3 次年度以降の計画・抱負 研究面では、実験研究でデータ分析を行ったこともあり、データを使った分析についてももう少しやってみたいというように考えている。 教育面では、昨年度まで使用していた教科書について、簿記検定の範囲と合わなくなっているところが多くなったので、改訂する必要があると思っている。	